

安全データシート

1. 製品及び会社情報

整理番号	03-011	
製品名	コンドル樹脂ワックス スーパープレジデムⅡ	
品番	CH783-018X-MB	
会社情報	会社名	山崎産業株式会社
	住所	兵庫県伊丹市北伊丹6-67
	電話番号	0727-82-8277
	FAX番号	0727-82-1097
推奨用途及び使用上の制限	床用ワックスとしての用途に限る	

2. 危険物有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性：

引火性液体	区分に該当しない
金属腐食性物質	区分に該当しない もしくは 分類できない

健康に対する有害性：

急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない もしくは 分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない もしくは 分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	区分に該当しない もしくは 分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
呼吸器感作性	区分に該当しない もしくは 分類できない
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	区分に該当しない もしくは 分類できない
生殖毒性	区分に該当しない
特定標的臓器（単回暴露）	区分に該当しない
特定標的臓器（反復暴露）	区分に該当しない
吸引性呼吸器有害性	区分に該当しない もしくは 分類できない

環境に対する有害性：

水性環境有害性 短期（急性）	区分3
水性環境有害性 長期（慢性）	区分3

ラベル要素：

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
強い眼刺激
水生生物に有害
長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き：	安全対策	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 保護手袋/保護眼鏡/保護面を着用すること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には選択をすること。 取扱い後は、よく手を洗うこと。 必要などき以外は環境への放出を避けること。
	応急措置	使用前に取扱説明書を入手すること。 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。 皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。 次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
	廃棄	残った内容物・容器は各自自治体の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
成分	金属架橋アクリル樹脂、ウレタン樹脂、アルカリ可溶性樹脂、可塑剤、水、その他成分

4. 応急措置

吸入した場合	直ちに新鮮な空気のある場所に移動させ、影響があれば医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水またはぬるま湯を流しながら十分に洗浄する。 異常があれば、医師の手当てを受ける。
眼に入った場合	炎症による痛みをおこすことがあるので、流水で15分以上洗った後、直ちに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	多量の水、牛乳などを飲ませて直ぐに医師の手当てを受ける。 被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはいけない。
医師に対する特別注意事項	情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤	粉末消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水
使ってはならない消火剤	情報なし
特有の危険有害性	加熱又は火災時に有毒ガスを発生する恐れがある。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火作業は、可能な限り風上から行う。
消火を行うものの保護	消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業には、必ず保護具（手袋・眼鏡・マスク等）を着用する。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項 除去方法	漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。 少量の場合、吸着剤（土・砂等）で吸着させ取り除いた後、残りを大量の水で洗い流す。 多量の場合、人を安全な場所に退避させる。 盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから、ドラム等に回収する。
二次災害の防止策	床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。 漏出物の上をむやみに歩かない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	取扱い場所の近くに洗眼及び身体洗浄の設備を設置する。
注意事項	眼及び皮膚への接触を避ける。
安全取扱い注意事項	作業場の換気を十分行う。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

保管

適切な保管条件	直射日光を避け、通気の良い暗所で容器を密閉して保管する。 保管温度は0℃～30℃が望ましい。
安全な容器包装材料	製品使用容器に準ずる。

8. 暴露防止 および 保護措置

設備対策

蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。

許容濃度

管理濃度	設定されていない。
------	-----------

保護具

呼吸用の保護具	状況に応じ着用
手の保護具	不浸透性の化学防護手袋(ゴム手袋)
眼の保護具	保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣
適切な衛生対策	取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。

9. 物理的 および 化学的性質

物理的状態：

形状	水性エマルジョン
色	乳白色～微黄褐色
臭い	微特異臭
pH	pH 8.2付近

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲：

沸点	100℃付近と推察する。
融点(流動点)	-5℃以下
分解温度	データなし
引火点	示さず
発火点	データなし

爆発特性：

爆発限界	データなし
蒸気圧	データなし
蒸気密度	データなし

比重 1.05付近(20℃)

粘度 データなし

溶解性

水溶解性	水と任意に相溶する。
溶媒溶解性	データなし
オクタール/水分分配係数	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の使用条件で安定。
反応性	自己反応性なし。
避けるべき条件	40℃以上の高温、凍結する環境（変質の原因となる）
避けるべき材料	酸類、塩類、溶剤類との接触（いずれも分離促進する）
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	情報なし
その他	情報なし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	情報なし
急性毒性（経皮）	情報なし
急性毒性（吸入：ガス）	情報なし
急性毒性（吸入：蒸気）	情報なし
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	情報なし
皮膚腐食性/皮膚刺激性	情報なし
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	（製品のデータ） 情報なし （成分のデータ） 軽度に眼を刺激することがある。
皮膚感作性	（製品のデータ） 情報なし （成分のデータ） 皮膚接触によりアレルギー性皮膚反応を示すことがある。
生殖細胞変異原性	情報なし
発がん性	情報なし
生殖毒性	情報なし
特定標的臓器（単回暴露）	情報なし
特定標的臓器（反復暴露）	情報なし
吸引性呼吸器有害性	情報なし
その他データ	情報なし

12. 環境影響情報

生体毒性	（製品のデータ） 情報なし （成分のデータ） 急性毒性甲殻類（オオミジンコ）48 h-EC50=0.66mg/L (M=1)
残留性/分解性	情報なし
生態蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	情報なし
その他のデータ	: BOD ₅ 74mg/L・COD _{mn} 46mg/L

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	十分に水で希釈し、排水管の目詰まりを防止する。また、大量に廃棄する必要がある場合は、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。
焼却する場合	関連法規・法令を遵守する。
廃棄する場合	都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関係法規・法令を遵守し、適正に処理する。

汚染容器・包装

空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に廃棄物処理法（廃棄物及び清掃に関する法律）、及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。

14. 輸送上の注意

国内法規制

陸上輸送

消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。

海上輸送

船舶安全法に定められている運送方法に従う。

航空輸送

航空法に定められている運送方法に従う。

国際法規制

航空輸送は I A T A 及び海上輸送は I M D G の規則に従う。

国連分類

該当しない

国連番号

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。
転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

15. 適用法令

国内適用法：

化審法（特定化学物質、監視化学物質）

該当しない

消防法

該当しない

労働安全衛生法

表示対象及び通知対象物質

・ジエチレングリコールモノエチルエーテル
(8.66%, 2025年4月1日以降)

通知対象物質

・アンモニア (0.26%)

皮膚等障害化学物質等

毒劇物法

該当しない

船舶安全法

該当しない

航空法

該当しない

化学物質排出把握管理促進法

該当しない（報告義務なし）

16. その他の情報

記載内容は現時点で入手できる資料、データ等に基づいて作成しており、新しい知見により訂正されていることがあります。また、注意事項は通常の実取扱いを対象としたものであって特殊な取扱いの場合は用途、用法に適した安全対策を実施した上でご使用ください。

なおこの記載内容は情報提供であって保証するものではありません。

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）

:非該当（報告義務なし）

内分泌攪乱作用を有すると疑われる化学物質（環境ホルモン）[環境省]

:原料として使用していません。

室内空気汚染物質濃度指針値対象物質（シックハウス対象物質）[厚生労働省]

:厚生労働省指針値該当13物質成分を原料として使用していません。